

## 第 1 回 上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

日 時：平成 25 年 2 月 6 日（水）13：00～15：00

場 所：十和田市役所 議会会議室

出席者：高井伸二委員（座長）、石井淳夫委員、田中孝雄委員、菊地順三委員、沼尾紀恵子委員、加藤正志委員、熊野稔委員、川崎富康委員、高田誓昌委員、浄法寺朝生委員、川村祐一委員、櫻田一雅委員、佐々木一郎委員、一戸実委員、小笠原和彦委員、佐々木保信委員、横手幸年委員 17 名

（欠席者）松山富雄委員、竹林秋雄委員、久野文夫委員、上長根浅吉委員、中塩俊一委員

## 1 開会

## 2 共同中心市長挨拶

（十和田市長挨拶）

只今ご紹介をいただきました十和田市の小山田でございます。懇談会に先立ちまして一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、皆様には大変お忙しいところ、また、足もとの悪い中、本懇談会にご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

また、先般は、本懇談会の委員の就任をお願いいたしましたところ、大変快くお引き受けいただきまして、重ねて御礼申し上げます。特に今回は、委員をお願いしてから間もない懇談会の開催ということで、皆様には、お詫び申し上げたいと思います。

さて、本圏域の中心市である三沢市、そして、私ども十和田市でございますが、平成 24 年 3 月に定住自立圏中心市宣言を行い、定住自立圏構想を進めていくことを正式に表明いたしました。その後、圏域市町村間におきまして、具体的に何に取り組んでいくのか、そういうことについて協議を積み重ねてまいりました。そして、昨年 10 月でございますが、定住自立圏形成協定をそれぞれ締結したところでございます。

今後、定住自立圏の形成をさらに進めていくために、圏域全体の将来像や取組の詳細な内容をまとめた共生ビジョンを策定してまいりますが、策定に当たりましては、取組に関連する分野の沢山の関係者の方々を構成員とする懇談会を開催いたしました。そして、その懇談会において、今まで取り組んできた内容について検討していただくことになってございます。

どうか委員の皆様には、幅広い観点から忌憚のないご意見を賜れば大変ありがたいと思います。

それでは、簡単ではございますが、今後皆様のご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げ、懇談会に当たっての挨拶といたします。よろしくごお願い申し上げます。

（三沢市長挨拶）

ご紹介をいただきました三沢市の種市でございます。私からも御礼、ご挨拶申し上げます。

まずもって、本日は、お集まりの皆様方におかれましては、大変ご多用中にも関わらず、このようにお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

また、本懇談会の委員の就任に快諾をいただきましたことを重ねて御礼を申し上げたいと思

ます。

このように、各地域から様々な分野の方々が、一堂に会するという事は、非常に珍しいのではないかなと思います。まさに、この定住自立圏構想が、圏域全体一丸となって、知恵を出し合わなければならないものであることを改めて実感をした次第でございます。

先程、小山田市長からもお話しがございましたが、本日は、これまでの圏域市町村における協議の結果として取りまとめた共生ビジョン素案について、ご検討いただくということでございます。

どうか委員の皆様方には、それぞれ各分野で、専門的な知識やこれまでの豊富な経験をもとに、圏域住民の視点に立った、忌憚のない前向きなご意見等をいただければより有り難く、このように思っております。

終わりにになりましたが、本懇談会が実りある会となりますことを祈念申し上げながら、簡単ではありますがありますけれども、ご挨拶に代えたいと思います。よろしく願い申し上げます。

### 3 委員紹介

(事務局)

資料1 上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会委員名簿 に基づき紹介。

### 4 上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会開催要綱について

(事務局)

資料2 上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会開催要綱 により説明。

### 5 座長の選出について

開催要綱第5条第1項の規定に基づき、委員の互選により、高井伸二委員に決定。

(座長挨拶)

座長を務めさせていただきます、北里大学の高井と申します。よろしく願いいたします。

さて、地方を取り巻く環境は、地方分権の進展、少子高齢化の急速な進行、あるいは生活圏域の拡大と行政ニーズの多様化、そして、国、地方を通じた危機的な財政状況の悪化等々、急激に変化しています。

特に、青森県は、総務省の平成23年度人口統計によりますと、福島、岩手、秋田、宮城、高知に次いで、人口減少がワースト6の0.77%ということになっておりまして、2015年から2020年までの5年間までの減少推定では、秋田県の5%に次いで、2番目の4.数%という人口減が予想されております。

定住自立圏構想は、広域行政の新たな連携の形として、これからも諸課題に対して、圏域自治体間で補完し合いながら、広域的に住民サービスを行っていく広域連携の発展版であり、地域行政の在り方として極めて重要な、これからのいわゆる生き残り戦略というように考えられております。

私ども懇談会の委員といたしましても、今後も厳しくなると予想される地域の状況を踏まえ、それぞれの地域、あるいは、自治体独自のサービスだけではなく、上十三・十和田湖の広域的なまちづくりを進めるために、どうあるべきか、あるいは、どうしていくべきか、というような観点から、本日の議論を進めていくことができれば大変ありがたく思っております。

本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 6 議事

### (1) 上十三・十和田湖広域定住自立圏構想の推進について（制度概要等）

（事務局）

資料3 上十三・十和田湖広域定住自立圏構想の推進について（制度概要等）に基づき説明。

#### 【質疑・意見等】

特になし。

### (2) 上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン（素案）について

（事務局）

資料4-① 共生ビジョン概要版に基づき説明。

### (3) 共生ビジョン懇談会の議論の視点について

（事務局）

資料5 共生ビジョン懇談会の議論の視点についてに基づき説明。

資料6 共生ビジョン素案に対する意見整理票に基づき、事前に頂いたご意見を紹介。

#### 【質疑・意見等】

（委員）

現代美術館では、東北新幹線全線開業効果活用支援事業の補助で、平成23年度から、あおりアートぐれっとパス事業を実施しております。今年度は、3館（十和田市現代美術館、三沢市寺山修司記念館、七戸町立鷹山宇一記念美術館）単独で実施しております。これは、来年度以降も進めていきたいと考えております。また、市長の方から、ご協力を得ながら進めていきたいと思っております。

小坂町との将来像についてですが、康楽館と美術館とタイアップして連携しながら、何とか良い方法がないものか、定住圏のこの話がありましたので、康楽館さんの方にもツアーや観光の面で連携できないものかと、25年度は検討していきたいと考えているところでございます。更に、それが進んだ場合は、3館連携にも加えて、広い視野で構えたいと考えておりますが、その点について、事務局で考え方がおありでしたら、お知らせいただければ幸いです。よろしくお願ひします。

（事務局）

3館連携事業でございますが、ビジョンの本文で言えば、44頁にあおりアートぐれっとパス事業ということで記載しております。

定住圏の事業でございますが、基本は5年スパンで考えております。（計画中の）矢印にありますように、まさに圏域とも一致しますし、広域的な連携事業でございますので、今後も継続していきたいと考えておるところでございます。

また、康楽館との関係について、ご意見を頂戴しました。小坂町様とは、まずはスタートラインとして組んだ事項が先程説明したものでございます。貴重なご意見をいただきましたので

自治体間で協議をして、また、小坂町と相談しながら実現できないかどうか、前向きに検討してまいりたいと考えております。

(委員)

よろしく願いいたします。

(座長)

関連して何かございませんか。

(委員)

私は、県境近くの休屋の隣の休平に住んでいます。康楽館とはちょっと離れているんですが、会場へ来る途中、小坂町の総務課長さんとお話ししてきたんですが、康楽館、十和田湖、奥入瀬溪流、十和田の現代美術館、三沢の航空科学館、寺山修司記念館、これらを線で繋げられたらという話をしていました。是非やった方が良くないかと思えます。

(座長)

ありがとうございます。ほかにございませんか。

(委員)

奥入瀬温泉活性化協議会から参りました。仕事の方は、株式会社ノースビレッジという、十和田湖・奥入瀬・八甲田山の自然の魅力を体験型の観光で伝える仕事をしております。この仕事をして5年になります。ビジネスとして観光客の方々々に案内をしましたのと並行して、奥入瀬・十和田湖の魅力というものが、一体何なのかということを探ってまいりました。これまでの観光というのは、ただ綺麗だとか素晴らしいとかという文句ばかりでお客さんを誘客していました。これは全国どこにでも腐るほどありまして、これからこの地域の観光を発展させていくためには、その本当の根っこ、どういう魅力がそこにあるかということ学術的な調査も含め、やってまいりまして、あの辺の自然の魅力の根源というものが、実は奇跡的な自然の成り立ちにあるということが分かってまいりました。

そういう学術的なものに支えられた、あの辺の1つの魅力というものを是非、教育という分野に流し込んでみたらどうかと。定住自立圏の圏域の子どもたちに限らず、大人たちへも。話を聞くと3~10年、奥入瀬に行ったことがないという人も結構いまして、よく見ていない人もいまして、その魅力が分からない方がほとんどだと思います。特にこれから将来10年20年のスパンで、東京に出たり戻ってきたりする子どもたちに、あそこを綺麗な観光地として見せるのではなくて、あそこから学びとれる地球のでき方であったりとか、生態の素晴らしさを学んでいただけるような、共通の教育プログラムを作っていただければどうかなと思います。それは只単に故郷を愛するというだけではなくて、高校に行くと、地球がいかにかきたかとか、私たち人間って一体何なのかといったところまで波及していく非常に深いものが、あそこにはあります。是非そういう観点で、ハードの共有ではなくて、ソフトの共有も作っていただければ良いのではないかというふうに思います。

(事務局)

事務局から補足説明しますが、本文の 31 頁でございます。まさに委員が仰った、問題意識を文章に書き込んでみたつもりでございました。広域観光の推進の項目ではございますが、民間企業や観光団体を交えた、圏域全体としての議論や情報共有の場が必要ではないかということが規定されております。

当然ながら、圏域内の各市町村や関係団体の取組についての情報と課題の共有と当たり前のことや、東北新幹線全線開業に伴う観光ルートの再構築が必要になるということがあります。現に、圏域内のいくつかの構成市町村や、その取組における連携を使いながらやっているところがございます。もう 1 つは、既存の観光地のみではなく、紹介されていない史跡や景勝地の掘り起こしでございます。当然ながら例えばエイトライン協議会だとか、観光庁の旅の十和田湖広域観光会議、既存も含みありますけれども、改めて考え直したらどうかということはこのビジョンに規定しており、そういう意味では、新規事業でございます。

25 年度を組織再編のための検討期間とし、翌 26 年度から順次取組を進めていくこととしております。十和田市議会でも実際に、市民が十和田湖に何年も行ったことが無いという指摘を受けたこともあります。教育との繋がりも勘案しながら、それも要素の 1 つとして留意しつつ、25 年度中に揉んで、26 年度からやっていければと思いますので、その過程の中でも、ご意見やご指導を賜ればと思っております。ありがとうございます。

(座長)

よろしいでしょうか。具体的取組の中での産業振興なんですけれども、その中に 1 つ、教育の側面も縦割りではなく、ジョイントのような形でやっていただければと思います。

(委員)

将来像の部分で、基本認識のところ少し付け加えていただけないかなと感じますのは、下段の方に、人口の定住ということは、維持をするということなんだろうけれども、生活機能の確保だけで定住できるのだろうと。やはり、そこに働く場がほしいなど。そういうものを今あるものだけやっていて持つのかなと。今回のこの中身を見ていきますと、交流人口も増やそうという中身はわかりますけれども、交流人口＝定住ではないと思うんですね。交流人口は、人口として増やすことができれば、定住もしていただくだろうし、人口も増えるだろうとは思いますが、雇用ということを明確に謳った方が良いのかなと。

それから、生活機能の確保ということですが、ある程度確保されていますので、今あるものを維持・確保ということにした方が、将来像とすれば良くなっていくのかなという気がいたします。

後、具体的な取組の中ですけれども、エネルギーの事を一緒にできないのかなというふうに思っております。産業振興の中の 1 つになるのか、新たに環境整備というものを設けた方が良いのか、ご判断をいただいて、できれば入れてほしいなど。青森県は、エネルギーパークと言われていまして、ここで言っているのか分かりませんが、原子力にしろ色々あります。風力、水力、特に十和田は水力発電に非常に強い力を持っています。それから、三沢市さんは、今度太陽光でプロジェクトを推していくという実態があります。更に今後取り組むとすれば、地熱の問題も十和田市の方は、八甲田温泉郷を抱えてできる可能性もあると思います。そういうものからの効果的には、雇用創出というものもできるであろう。特に太陽光に関しては、昨日一昨日あたりですか、どこかの学校の跡地にメガソーラーを付けるということが出ています。

この地域の市町村さんも、小学校、中学校の跡地利用ということが、非常に多く囁かれていますし、過去もあったとそういうふうに思います。その跡地利用ということでもエネルギー問題をできるのではないかな。更には、1次産業の多い地域ですから、そういうもののバイオエネルギーということも検討していく材料で、雇用促進ができていくのではないかなという気がしていますので、そういう検討部分も入れていいのではないかなと思っております。エネルギーは、今は買う状態から、作って売っていくというところに変えていけるという地域ではないかなと思っております。

(座長)

事務局の方でいかがですか。

(事務局)

大きく2点あったと思います。1つ目は、圏域の将来像のところ雇用という観点のお話でございました。当然ながら、安心して住む以外にも、食うために雇用がなければ暮らしていけません。それはごもっともでございます。ただし、雇用を生むという観点でいうと、どこかの企業が工場を建ててくれたから雇用が増えるとか、そういう時代でもないのかなというふうに思っているところでございます。何が言いたいかと申しますと、16頁の基本認識のところでございますが、明示してはおりませんでした。その辺りは、「地域が知恵を出し、創意工夫をしながら、自主的、自立的な地域づくりを進める」というところで、書いておったつもりでございました。

地域には、2つの要素しかないと思っております。まず、地域資源があります。この地域資源でございますけれども、普段住んでいる人から見れば、資源ではない物も余所の人から見れば資源になったりするとか、そういう意味で地域資源があります。もう1つ地域には何かあるかという、人があります。地域活性化施策が全国でも色々あって、観光ですとか、雇用とか、色々なパターンの地域活性化の取組がございますけれども、要は地域資源と人材の掛算で生まれてくるものだというふうに思っております。雇用も含めてその辺りの思いを16頁に書いておった次第でございました。

2点目のエネルギーに関してのご意見ですが、まず、冒頭申し上げますが、連携メニューでございますけれども、定住圏で連携するとしたら、どういう事業ができそうかということで、協定やビジョンを組む前に圏域市町村間の担当者での打合せをしてきました。その中で、今回のスタートラインとしては、エネルギーという項目が入っておりませんでしたので、一覧の中に書いておりませんが、当然ながら、委員が仰ったように、各市町村での単一の自治体の取組ですけれども、色々取り組んでいるところでございます。

それについて、圏域で情報共有しながら、再生エネルギー事業を進めていけないかということは、今後の新規連携項目の1つとして、考えていきたいと思っております。ご提案ありがとうございます。

(座長)

よろしいですか。では、次をお願いします。

(委員)

次に 19 頁の医療の部分なんですけれども、この地域医療ネットワークを作って、地域連携パスというものを作っていただくのは、非常に効果的で良いと思います。これまでも、医療にかかる方々がご不便をしているのが、やはり、病気の方ですから、どうしても自分の車で動けないですとか、要するに交通の確保というものが非常に大きな課題になるのだらうなと思われまます。常に医療で話になるのは、医療のことが話されるんですけれども、医療機関にどうやって行くかということが、見直されてきてはいないかなと。できれば、今回この中では、そういうことも含めて、ご議論いただければなというふうに思っております。

(座長)

これにつきましては、何かございますか。

(委員)

今のお話しでは、病院に行きやすいということですか。どうやって行くのかということになると、足の問題でしょうか。

(委員)

足の問題です。やはり、自分で動けない方となりますと、家族の方もあるんでしょうけれども、ここでもお話しのように核家族化が進み、老人 1 人でどこへも動けない。パスがあっても、例えば、東北町の方が十和田の病院へ来たいと言っても直通のバスがない。そういった中で、病院間をうまく回れるような制度を作れないのかなと。

(委員)

足については、単に我々医療だけでは、解決できる問題ではございませんので、やはり市町村の方々と話し合いして、バスを出すとか、何か方法が必要だろうと思います。

ついでに申し上げますけれども、地域連携パスネットワーク事業は、5～6年前から、最初は、保健所でしたけれども、十和田市立中央病院が事務局となって、私共が毎年会議を開いてやっております。ご承知の通り、この上十三地域は非常に広いんですね。前に調べてみたら、香川県より一回り広いんです。あっちは、人口が 110 万位でしょうか、私共は、人口 20 万。実際に香川県と地図を比べたこともあるんですけれども、それに小坂町が加わったことにより、また非常に広大だということを感じていただきたいんですけれども、その中で、とにかく地域連携パスネットワークをやろうということで、どうしても十和田市が中心になってしまうんですけれども、その辺は、十和田市立中央病院を中心にして、そのほかに 2～3 件行ったり来たりするように、急性期を過ぎれば、次の病院をご案内するという、そういうことをして大分効果は上がってきております。ただ、それ以前に、八戸の方の病院がサービスが良いということで、患者さんが選ぶものですから、大分このことでも混乱したんですけれども、少しずつ理解していただいて、その辺はうまくいっていると思っております。ただ、広いものですから、最初は、脳卒中でスタートいたしまして、それからがんとか糖尿病とか少しずつ広めている最中です。ただ、残念なのは、例えば、北部上北とか、三沢、百石、それから、おいらせ町は八戸に近いということで、向こうへ行ってしまったりとか、患者さんの自由ではございますけれども、そういうことをどのようにカバーしていけば良いのか、あまり広いものですから、とにかく、十和田地区でいうこの辺がしっかりできれば、皆さんも耳を傾けてくれるらうということで、

まず、この地区を確立させようということで、現在やっているところでございます。

交通機関に関しましては、各市町村で判断し合っただけですね、同意していただければ私もありがたいと思うんですけども、こればかりは私だけではどうにもならないものですから、皆さん共通の話題としてお持ち帰りいただいて、また、首長の方々とお話し合いいただければありがたいなとこのように思っております。

(座長)

ありがとうございます。各論につきましては、次のステップでやっていただくことになると思います。ほかに、順番に行きますか。医療関係が終わりましたので、次に福祉関係のことでお願いします。

(委員)

障害者介護給付等審査会事業についてですけども、最近、特別支援を必要としている人が、すごく多い気がいたします。各市町村でも、そういう取り組みが為されているかと思えます。

養護学校に入っている方は、養護学校のバスがお迎えに来て、それに乗って、七戸と八戸に行くようでございます。ところが、そこにも入れないという、お子さんもいらっやいまして、各小学校、中学校にも特別支援の\_\_\_\_\_に入っているようです。そこまでは何とかなんですけれども、それから先、高等部へは自分たちの足で行かなければいけないそうです。そうすると常に親が送り迎えしなければいけないというような状況になって、行けないというお子さんがいらっやというお話を聞きました。

そのときに、一市町村で対応するのは、負担が大きすぎると思いますので、10市町村でそういったものへの取組がなされれば、可能かなと思えました。

(事務局)

障害者介護給付等審査会事業に関連してのお話だったと思います。まず、その事業についてですけども、障害者の方が給付費をいただくにあたって、障害程度を認定するという事業を圏域間でやっておりますので、当事業をやっておるという格好となります。

ご指摘にありましたのは、特別支援というお話しになると思いますが、それについては、障害程度区分の判定をせずに、市町村の窓口に申請することで、サービスを受けるという仕組みが為されております。

特別支援学校について、ご意見を賜りました。ありがとうございます。高等部という話ですけども、実は、県立学校でございますので、市町村の方から中々言えないところではございます。現状をちょっと調べてみましたところ、スクールバスを数台運行して、小中学生を送迎しているところもございます。ただ、高等部は路線バスが中心となっております。この件は、路線バスを維持するように、このメニューの中で頑張っていますが、中々足りない部分もあります。スクールバスへの対応等が難しい点につきましては、地域生活支援事業の中での移動試験事業として、国と県と市町村が折半して、特に障害が重い方については、何がしかの支援をしているということではございましたけれども、委員のご指摘を踏まえながら、担当課へも問題意識を伝えながら、できれば、サービスを合わせていければと思います。ご意見ありがとうございます。



(委員)

分かりました。続いて、34頁の販路拡大のことについて、第6次産業のお話しですが、先程、お話がありましたように、中央から大きな会社、大きな工場をこちらに誘致するということは、今、大変難しい状況にあると思います。そうであれば、地元である青森県は、日本においても110～120%の食料自給率でございますので、その第1次産業を活かした、第2次産業、第3次産業と続いて、第6次産業に特化したようなことができないものかと思いました。

この圏域に、ファンドを作り、農業者の方々、漁業者の方々、林業者も含めてでしょうけれども、そういったものを活用して、第6次産業を推進できるような何かがないものかなと思いました。

私の知り合いで農業をやっている方が、この6次産業に取り組み、売れる物は作ったけれども、それを製品化して売るところまでの経済的な負担が大変大きく、作ったものが売れるかどうか、ペイできるかどうかというところまでを考えると、ちょっと手を出すのに躊躇するという話をしていた。

そこの部分で、ファンドか何かを作って、そういう方々に支給、お貸しするとか、そういうことができればありがたいなというふうに思いました。それが上手くいって定住していただければ、まさによろしいですね。以上です。

(座長)

事務局の方からございますか。

(事務局)

6次化のお話しですけれども、最初に圏域の市町村間で協議をしたときに、まさに同様の提案がございました。委員に仰っていただいたとおり、6次化とはそもそも何かというと、通常、農業は1次産業でございますが、自分たちで付加価値のある商品を開発するのが2次の話です。それを売って行くのが3次です。それを一貫してやるのが、いわゆる6次化でございます。6次化ができる農家というのは、一定の体力が必要となるということでございます。

やはり、この広い上十三で6次化をできるところ、できないところはどうしても出てまいりますので、協定等に文章で書き込みますと、中々、拘束力的には強くなってしまいうんどうなと思われました。

ただ、全くそれを消し去ったという訳ではございませんので、協定文のところにもありますが、「圏域の特産品の販売戦略を展開する」の中で、特産品の販売戦略という部分は、2次と3次が混ざっています。6次は何かというと、ここでしか買えない付加価値のある商品、それこそが売れて、収入に繋がってくるものでございます。6次という言葉を使わなければ、それは、地域ブランド化ではないかと思っております、その辺りは、しっかりと文章化しておるところでございました。当然ながら、まだ始まったばかりなんですね。農林水産省が6次化と言い出したのは、ほんの数年前でございます。今回、連携項目としては、各市町村で、販路拡大のために、この事業は、中長期的に続けましょうというものを出してございます。6次化が進んできたときに、十和田市でもやっているし、いくつかの町でもやっているからノウハウを共有しながらやっていきたいと思いますということも含めながら、毎年見直しをかけていきたいと思っております。

もう一度まとめますと、当然ながら、このメニューの文章にも6次化を視野に入れた取組み

として書いております。委員のご指摘、叱咤激励をいただきなら進めていきたいと思っております。

(座長)

よろしいですか。

(委員)

すいません。ファンドを作るような形はできないのでしょうか。

(事務局)

ファンド化という、恐らく、6次化の認定を農水省から取ったときに、各種支援が出ます。それを原資にしてファンドを作る格好になるかと思えます。そういたしますと、まず、市町村としてサポートするには、6次化の認定を受けられる体力を農家の皆様に付けていただく方向性となるのではないかと思います。

十和田市の話でございますけれども、今年そういった事業を予算を組み、検討しておるところでございました。そういったノウハウを圏域に紹介しながら、農家の皆様に6次化の認定が受けられるようにバックアップしていくことは可能ではないかと思っております。

(委員)

ありがとうございます。

(座長)

よろしいですか。今、産業振興の方へ少し飛びましたが、福祉の方でコメントございますか。

(委員)

先程、病院、バスのお話しがございました。私の地域には、八戸へ行く福祉タクシーがあります。頼むと八戸の病院まで連れていく。そういった福祉タクシーというのもできれば、バスを使わなくとも、\_\_\_\_\_さんがやっていますから。そういう意味では、はい。

(座長)

ありがとうございます。それでは、私の方から指名させていただきながらやりますが、次、教育関係の方で4つか5つ程事業がございますが、これに対して何かコメントございますでしょうか。

(委員)

今ご提案いただいている教育分野を、事前に資料をいただいたときに見させていただきました。

これについては実際に稼働しているものもございますし、全く妥当な生涯学習、図書館の運営、それから英語教育。英語教育については先程三沢市さんの方が先行しているという事例とか実際にやっているとお聞きしておりました。それで今日の懇談会に出席させていただく際に、何を提案してどうしたらいいのか自分なりに考えてきたんですが、既存の交流を見ていると、

とりあえず目新しく付け加えるのではないのではないかな。何が必要だろうと思ったんですが、中々思い浮かばなくて。それで、先ほど非常にいいご指導いただきました。というのは修学旅行考えてもですね、最近では小学6年生でもほとんど東京、北海道ですね。それで最近では東京の方でスカイツリーなど様々なものが出来て、東京に行っているところもあります。それで実際足元の十和田湖に1年生から6年生まで、それから中学生も行っているのか。おいらせ町でも、ほとんど行ってない現状であろうかなと思います。目的、観点もそうですが、おそらく乙女の像とか奥入瀬の溪流など、綺麗なものを見て自然に親しもうということだと思えます。それが地質とか生態とか、それからコケもいろいろと話題になっておりましてですね。それで、当町は、奥入瀬川の下流に位置します。そういうことで奥入瀬の川ということで考えますと文化的な面、地域風土性ですね。非常に気質を育成することからいきますと、非常に川の重要性というのもございます。

そういうのも含めて具体的にそれが子供たちの教育にどう活かしていくかということで、もう一度ですね、十和田湖の魅力、十和田の自然の魅力をもう1回考えて、とりあえずは東京でもそれを活かせるような方策を作っていけたらなということをご指導をいただきました。大変ありがとうございました。

(座長)

ありがとうございます。続きまして何かございますでしょうか。

(委員)

ちょっと総論になると思うんですが、基本認識のところ数年先の利益ではなくて10年20年先を見据えたことをうたっている訳です。そうすると先般の新聞なんかでも、20年後のこの圏域の大幅な人口の減少を見たときに、まさにこの広域の定住自立圏のこの部分が必要を増してくるんじゃないか。これを実現させていくためには、地域の住民の意識を醸成していかなければ、中々どの事業も発展していかないのではないかな。そういう風なことを考えたときに、現在の学校教育の中でこの地域の子供たちにこの広域定住自立圏の必要性というか、どこかの学年で子供たちに教えていくことが、この地域の共生がよりスムーズになっていく可能性が高いんじゃないかな。そんな部分を今年度の事業の中で、あるいは副読本を作るとか。そういう部分をお考えしていただけることが必要じゃないかなと感じております。

(座長)

ありがとうございます。続きまして何かございますでしょうか。

(委員)

先ほど地域資源の話がありましたが、私の方は地域じゃなくて知識の方を、知的資源の方をフルに活用しようということで10数年前から各市町村の文化協会と一緒にあって展示会を開こうということでやっていました。ところがそのために苦労が多かったんですが、割とレベルの向上にはよく働いてくれていたんですが、ところが人が段々少なくなってきて残ったのが年寄りばかりで、年寄りがこれだけのたくさんの各市町村から集まってきた作品を展示するのが大変だということで、今年取りやめたんですよ。ですから、これに逆行するような形になってしまいました。ですからもう一回また機会があったら一緒にやりませんかということでやり

たいと思いますが、そういうこともありました。確かに知的支援の効率的な活用というのが良かったなという感じがして、ちょっと手を引くのが早すぎたのかなという感じがしてましたが、なんか1回復活させたいなという思いがいっぱいあります。

それから話は別ですけど、先ほど裂織の話が出ましたが、私も確かに裂織もいいんですけども、ある高等学校の修学旅行で京都に行ったら、生徒さん達が、青森県から来たから今日は特別なものを食べさせてやるというので、出てきたものが長芋だったそうです。これは長芋じゃないかということですが、京都では滅多に手に入らない最高級の長芋なんですよ。そこで生徒たちはどこが産地なのか知りたいということで、箱になんか書いてるんじゃないか。その箱を持ってきてということでその箱を見ましたら、上北郡六戸町と書いてあった。なんだ俺たちが作っていた長芋じゃないか。いや、この長芋本当に高級品なんですよと。初めて自分たちが作った長芋が日本一の長芋なんだと初めて分かりました。これ 20 年位前の話なんですよ。ですからこの地域は長芋に関しては、まだまだ日本一だと思うんですが、この辺少し頭に入れておいてもいいのかなという感じがしております。

(座長)

ありがとうございます。続きまして産業振興で4つほどの事業が出ておりますけども、何かございますでしょうか。

(委員)

産業振興の分野に関しましては、特にですけど、八戸以北の新幹線開業の辺りから市町村というのを県全域で開発といいますか PR というのか、いろいろ協議しています。現にこのエリアを取り込んだ特産品を使った PR 活動等も隣にあります上北地域県民局さんの方も一生懸命動いてましてやっているところではあります。

我々の立場といたしますと、県抜きで市町村単位で話をまとめるというのは、ちょっと難しいところがあると思うんです。というのは、私がちょっと間違っていたら申し訳ないんですけども、十和田湖一つとっても県全体の観光の狙いといいますと青森駅で降りてもらって青森駅の方から十和田湖に入って、またそちらに帰ってもらうようなプログラム作りがある程度出来ていると思うんです。それを我々子供のときから十和田入って十和田湖見て、また国道4号通って帰るというルートが私ら子供のときから普通だと思っていたんですけど、県の狙いですとちょっと違う。この辺を今一度組み変えて考えて行くというのがこれからのテーマなんだろうけども、何かいい方法があれば私個人としても尽力していきたいなと思っております。

(座長)

ありがとうございました。

(委員)

まずこの事業が素晴らしいなと思うのは、ひとつひとつの取り組みについては網羅されていると思うんですが、ビジョンというのがすごいなと思っています。資料の中にもあったんですが、有機的に繋がってやっていくときに、いろんな役割がある中でビジョンというのは、1つの方向性を示すと思うので、広域の将来像について意見と要望を伝えたいなと思います。裂織というのが素晴らしいビジョンだなと思っています。まず、地域の自然の魅力を活かしていく

というのが、さっき地元の人が地元の観光地に行かないと仰っていたんですが、私十和田湖に毎年何回も行って、東京の友達を連れていくと1人が次の年に3人5人となって帰ってくる。それはなぜかというを見るだけじゃなくてカヌー乗ったりして楽しんで今まであった価値を味わっていくというのがうまくいっているなと思います。裂織も今まであったものを紡いで新しい価値に変えていくんで。後は、豆二つ包めるものは無駄にするなという昔の人の知恵が入っていることとか。後は物を大切にす文化だったりとか、無いものを作るんじゃなく、有るものを活かしていくという、そういう考え方が素晴らしいなと思いました。

要望としてはですね、裂織というビジョンに至った経緯はいろいろあったと思うんですけど、その中で、こういうことがキーになって裂織となったということを私にも子供でも分かるような何かのキーワードで書いていると、いろんな組織、いろんな人がそれを見たときに1つの方向性を示せるかなという感じがします。1つ1つの事業については特にありません。

(座長)

事務局の方から何かありますか。

(事務局)

ありがとうございます。裂織というビジョンを作るに至った経緯ですけども、1番最初に、県内ですと八戸と弘前が先行していると話をしました。十和田と三沢で扇の要になってやっていくときに、都市の文化にしても八戸や弘前とは違うんですね、この上十三地域は。そうした現状を、地域を守るだとかそういう言葉じゃなくて、先ほど地域資源の話をしましたけども、この地域資源に例えてキーワード化することが、まさにビジョンじゃないのという問題意識から何か地域資源をうまく表現できるのがないのかなと探していたら、これじゃないのということでした。また、連携項目を組んでいく過程でも中々こういう場では言わないものですが、当然ながら、市町村間ではここは良いけれどもここは譲れないとか、協議ですから。それぞれに事情があります。当たり前だと思うんです。でもそれを無理に1つの色に染めることはこの圏域の現状からはおかしいと思うし、私はお互いの違いを認め合うことが一番この圏域で大事だと思うんです。それを1つの絵にするならこれだということでのこのビジョンを作ったということです。分かりやすいキーワードはないんですが、検討経緯はそういったところでした。

(座長)

ありがとうございます。続きまして何かありますでしょうか。

(委員)

18ページの第4章具体的取組ということで、先程も誘致企業の話をしていました。この2市7町1村が1つになって、何かの企業をどこかに誘致することができないのかな。というのは、雇用には絶対結びつくし、景気にも結びつくものの1つだと思っています。そのためにも何とか連携を強くして、どこにでもいいからとにかくこっちに来てくれということのできる方策をしてもらいたいということ強く感じております。ただ、この中で行けば産業振興なのかインフラ整備なのか、ちょっとその辺を事務局の方で考えてもらえればなということを考えております。

それからもう1つは、私の立場から、どこの地区もそうなんですが、まちづくりという昔の

華やかさがなくなったのが現状ですね、全国見ても中々うまくいかないのが現状でして、そのための情報交換、10市町村が集まって、例えば月1回でもいいし、2カ月に1回でもいいから、産直、加工品でもいいので、今月はこうだよ、来月はこうだよと順番で広げて行ってそれを徐々に多く数を増やしていく方法もできないのかなと。それと誘致企業ができないのであれば、この周辺には多くの食材、いいものが出ております。それを加工できる建物がどこかにできて、それでひとつの雇用の場の創出になるのではないかと感じております。

別に返答はいいですけど、そういったことも考えられないかなということですよ。

(座長)

事務局の方から何かコメントがあったらどうぞ。

(事務局)

念のため補足しますと、冒頭でのご指摘のときに、大工場を持ってきて何とかするのは、中々あれだと私申しあげましたけども、それが意味がないと申し上げた訳ではなくて、このご時世では、中々すぐとんとんと行く訳ではないという趣旨で申し上げたものです。当然企業誘致に成功すれば、雇用は創出されます。ただ、今回の協議の中で、中々そこまで合意には至りませんでしたので、その点について今後検討していきたいと思っております。当然ながら誘致をする場合に、それぞれ地の利があると思うんですよ。その辺りの役割分担を含めながら、具体的な話が持ち上がったときは協議していくのかなというふうに思っておりました。

後は、普段もご指導やご鞭撻をいただきながら、行政のスピードが遅いということがございまして、担当課に伝えながらなるべくご要望にも応えられるようにしたいと思っております。ありがとうございます。

(座長)

ありがとうございます。それでは次は防災消防関係で4つほどの事業が提案されてございますけども、何かコメントございますでしょうか。

(委員)

35 ページ、36 ページになりますけれども、ここでは関係市町村の役割分担というものが載っております。概ねこういうふうな動きになると思っております。

ただ、私、今、名簿にもあるように一町内の会長をやっている面から申しあげますと、先般の23年3月11日の震災に関してでございますけれども、その後1年、あるいは1年半後の去年の秋口に避難訓練をやっております。これは三沢市全体で避難訓練やっておりますけれども、当地区はこじんまりとした集落なんですけども、非常に参加する人が少ないと。これは例えば新聞等でも結構言われているんですが、参加する人がどうしても少ないと。たった1年、1年半経ってもそのような参加する人が少ないと。それはなぜだろうかと。やはり言われているのが高齢化が進んでいるというふうなこと。参加したいんだけど避難経路、避難場所が非常に遠いんだというふうなことが1つあるんじゃないかと思っております。ある地区においては歩いて避難できる人もあるが、今結構車で避難しなさいということが言われております。そうすることによっていわゆる避難経路、避難道路の確保も必要ではないだろうか。

それから、住民に対する啓蒙啓発。そういうふうな活動も必要ではないだろうかというふう

に考えております。ちなみに恥ずかしい話でございますけども、うちの町内、約 200 世帯あるんですが、先般の 24 年 11 月の訓練では、参加者 90 名。人口が 650 人位おるんですが、大体 15%位という非常に低い参加率でございます。そういうふうな意味から言って、ここに住民に対する啓蒙啓発活動を積極的に推進してもらえればいいのかなど、このように考えております。

(座長)

ありがとうございます。全員にお話を伺いたいので、最後、何かございますでしょうか。

(委員)

私、七戸町で新幹線の駅利活用の委員長をやっているんですが、乗降客は非常に多いんです。しかも駅は、駐車場が足りないくらい皆さんが不便しているという状況なんです。乗り降りしている人たちが、実際にこの地域に貢献しているのかというと、私はかなり疑問を持ってまして、先般の 12 月に商工会の方でチラシを作りまして、何をするかと言いますと、乗降客に対して手配りでお土産品の販売をしようじゃないかと。これは七戸町の業者だけじゃなくて、上十三広域から参加者を募って 20~30 社位あったんですかね、共同チラシを作りました。ただ残念ながらですね、中身的には非常に 1 コマ 1 コマが小さすぎまして、中々思うような PR になっていないというのが現状でした。私は、年末、かなりの方に手配りしました。これは今後、事業として、もっと広域的に進めていって、地域の特産品をどんどん地域の人にじゃなくて観光に来る方、出張に来る方にお土産品で買ってもらえる事業に推進していきたいというふうに考えております。

(座長)

ありがとうございます。これで一応委員の皆さま方にはそれぞれの立場から共生ビジョン素案を特に具体的な取り組み、あるいは圏域の将来像に関してコメントをいただきましたが、もう少し時間がございますけれども、何かコメントといたしますか、付け加えたいようなご提案等ございますか。よろしく申し上げます。

(委員)

大変申し訳ありません。本当に私、前もって資料貰ったんですけども、勉強不足もありまして、このような形であれなんですけども、現在、少子高齢化、過疎化が進んでいる中で、例えば将来的に 20 年とか先、人口が半分になるような形になっているんですけども、これの対策というのが一番大事だと思います。そういうことで、これからの対策事業といたしますか、例えば主婦に対する支援とか、具体的にはまだはっきりあれなんですけども、そういう対策事業も必要なんじゃないかと思ひまして、今話させてもらいました。

(座長)

ありがとうございました。事務局の方から何かありましたら。

(事務局)

将来像についての話もありましたので繰り返させていただきますと、人が安心して住める環境というのは 2 年 3 年では当然できないと思っています。そうした点もありまして、ご指摘に

もありましたが、基本認識に書いたところは、数年先の利益を求めめるのではなく、10年先20年先を見据えていく取組だということを記述させていただいているところがございます。先ほど雇用もありましたし、定住のための支援事業も必要だというご指摘もありました、当然それは認識しております。ただ、スタートラインとして中々そこまで行かなかったところもございまして、今後の過程でそうして活かしていければと思っていました。

暴露話になってしまいますが、元々広いということもありまして、あまり何度も顔を付き合わせながら構成市町村が議論する機会があんまりこれまでなかったと思うんです。そういう意味でいくと、これから始めていこうねという意味合いが強いです。委員の1人1人の皆さんからご議論いただきましたけども、意見を整理させていただいて、取り組みを進めるときの視点として活用させていただいたり、ご提案については、すぐに出来るか分かりませんが、出来ないという意味ではなくて、実現可能性を考慮しながら検討していきたいと思えます。バスにしても、病院間連携パスでお話がありましたが、運行ルートだとか、まず路線化するのか、もしくはデマンドタクシーなのか、いろんな方法があると思えます。その辺りは、一步一步やっていきたいと思えます。

この文のキーワードは付けてありませんでしたけども、10年20年先を見据えて、毎年度深化していくということを考えれば、勝手な造語ですけれども、この取り組みは、積み木とも言えると思えます。積み木というのは、バランスをとって積んでいかないといけないんですね。途中で崩れるとあっという間に倒れてしまいますので、10市町村でお互いを折り合えるところを折り合いながら、積み木を重ねていこうと思えます。1人1人のご指摘大変ありがとうございます。

(座長)

ありがとうございました。それではですね、只今事務局の方から資料4でご提示がありました共生ビジョンの素案の具体的な取り組みも含めてですね、概要については皆様方にご了解をいただいたという認識でよろしいでしょうか。

(委員一同)

はい。

(座長)

ありがとうございます。それでは、ここで本日の議論を終了させていただくということで事務局の方に後はお渡しいたします。よろしく申し上げます。

(事務局)

第2回目の会合を準備しています。2回目は、今日いただいたご意見を整理すると、本日ホームページで公開しますが、中心市が中心になりますけれどもパブリックコメントもしようと思っております。その結果も踏まえながら2回目の会合をさせていただきます。

次の日程でございますが、平成25年2月25日月曜日となりますが、時間は同じ13時を想定しております。なお、場所につきましては、三沢市役所の中の会議室をお借りして開催したいということで、改めて詳細につきましては、ご案内申し上げます。



(座長)

それでは、只今、事務局の方から本懇談会の次回の懇談会の日程と、パブコメ等々のご報告がございました。

もう1つは、議事録の公表ということもございますが、これにつきましては、事務局の方で意見・要旨案を作成していただいた後に、私の方で確認して、ホームページを通じて公表していくことで考えております。また、公表する意見要旨については、委員の皆さんにも補足していただくことになると思います。また、議事録の内容確認等々は、私と事務局に一任させていただくということで、よろしいでしょうか。

(委員一同)

はい。

(座長)

ありがとうございます。それでは、以上をもちまして、第1回上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会を終了いたします。

本日は、皆さん、長い間ありがとうございました。

以上